

子どもに伝える防災

——自分で考え行動で「nonoふもじ」——

霧島市立牧園小学校

PTA会長

そのだ
園田

みつひろ
充洋

1995年1月17 来事でした。

日、みなさんは何をされていたでしょうか。

当時、学生だった私は、立てないほどの揺れと食器の割れる音で目を覚ましました。阪

神・淡路大震災です。

数日後、何か行動しないといけないと思い、神戸へボランティア活動に出かけました。テレビ

で見ていた光景を目の前

にすると、数日前まで賑

やかだったことが遠い昔

の出来事のように思える

ほど非現実的な状況で

した。災害はいつ起こ

るか分からない。だから、起きた時にどう行動

するかが大切になると

いうことを実感した出

現在、小学

5年生と年長

園児がいるわ

が家では、「緊

急時は避難所

になっている

小学校へ行く」を合言

葉にしています。それ以外にも、自分ができることをするボランティア活動の大切さや、「川は危

ないから近づくな」ではなく、「生き物もいる楽しい場所だけど、何か危険なことはないか」を尋

ね、いろいろな危険が潜

んでいることを理解させるようにしています。もちろ

ん、「大人がいないときは近づかない」が

原則ですが、災害はい

つ起こるかわかりませ

ん。最大の防災は、自分

自身で危険予知ができる

かどうかだと思います。

2011年には、新燃

岳が噴火し、最近は、硫

黄山も火山性微動が頻

発しています。何が起

こるか分からない今だからこそ、自分で考え行動できる子どもにな



新燃岳噴火(平成 23 年1月 26 日)